

## 「文化芸術活動への助成に係る新たな審査・評価等の仕組みの在り方について(報告書)」の取組状況

(平成27年4月1日現在)

事項	報告書の記述		これまでの取組					
	課題	実施すべき取組	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
体制整備			1. PDPOの配置(音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能の4分野:PD4名、PO16名)					
			音楽:PD1、PO3 舞踊:PD1、PO3	演劇:PD1、PO4 伝統芸能・大衆芸能:PD1、PO2	(追加)演劇:PO2	(追加)音楽:PO1 (追加)伝統芸能・大衆芸能:PO1	音楽:PD1、PO4 舞踊:PD1、PO3 演劇:PD1、PO6 伝統芸能・大衆芸能:PD1、PO3	
			2. 文化芸術活動調査員の配置(上記4分野18名)					
			音楽:7 舞踊:4	演劇:2 伝統芸能・大衆芸能:2	(追加)伝統芸能・大衆芸能:2(追加3、退任1)	音楽:7 舞踊:4 演劇:2 伝統芸能・大衆芸能:4		
文化芸術活動への助成に関するPDCAサイクルの確立	Plan	事業に係る基本的な方向性の提示	3. 事業に係る基本的な方向性の提示					
			音楽・舞踊で実施	演劇、伝統芸能・大衆芸能で実施				
	Do	専門的な審査の実施(専門委員会、部会、運営委員会においてPDPOが助言)	4. PDPOの意見を踏まえた助成事業の募集案内の作成					
			5. 専門的な審査の実施					
	Check	公演調査の実施率は低く、地方の公演調査が少ない		6. 公演等調査の充実				
				①公演調査評価基準の作成 ②公演調査報告書の様式改訂、マニュアル策定 ③文化芸術活動調査員の委嘱(上記2参照) ④調査対象の拡大(公演等調査数:553件) ※公演等調査数は延べ調査回数	(725件)	(965件)	公演調査報告書様式の再改訂 (1,168件) ※「トップレベルの舞台芸術創造事業」については、100%の実施率	
Action	事後評価に関する評価手法や評価基準が定型化されておらず、助成効果についても詳細な分析や評価が十分になされていない	事後評価の実施 評価基準の公表	7. 芸術文化振興基金運営委員会による事後評価					
			事後評価の実施に向けた公演等調査、準備	「トップレベルの舞台芸術創造事業」の一部の活動について実施(116活動)	「トップレベルの舞台芸術創造事業」の全活動について実施(322活動) (※評価結果を団体に伝達、翌年度事業への反映)	(298活動)		
審査の透明性の確保・文化芸術団体の活動の発展に資する取組	募集時に審査基準が明らかになされておらず、どのような基準で審査しているのか不明瞭	審査基準の作成・公表	10. 審査基準の作成・公表					
			音楽、舞踊分野で審査基準を公表	演劇、伝統芸能・大衆芸能分野で審査基準を公表		美術分野で審査基準を公表	映画・地域文化を含む全ての分野で審査基準を公表	
			11. 相談窓口の開設・公表					
助成事業の実施に必要な調査研究	不採択理由を公表していないため、不採択団体は改善すべき点が明確でなく、次回以降の応募に当たって参考とすることが困難	採択理由・期待される効果の公表 不採択理由の公表 事後評価結果の公表	12. 助成団体との意見交換					
			審査過程における指摘事項の伝達(81団体)	(96団体) 事後評価の結果等の伝達	(158団体)			
			13. 助成事業の実施に必要な調査研究					
	助成対象分野の動向や、文化芸術団体の公演実績、受賞歴、財務状況等のデータの蓄積、分析が不十分	文化芸術団体に関する情報、助成対象分野に関する我が国及び諸外国の動向についての情報を収集・分析 鑑賞行動の動向を把握 公演調査、助成団体との意見交換の実施 収集した情報、データのデータベース化	調査分析研究員の配置(2名) 芸術文化活動に対する助成制度に関する調査分析事業(文化庁委託事業)の実施	前年度調査の追加調査・再分析(視覚化)(独自事業として継続)	芸術分野への公的助成の普及状況の分析 芸術団体の公的助成に対する意識の分析 芸術団体の基礎データの分析	(1名追加) 公的助成を行った公演の鑑賞者の動向等を調査		